

2022年3月4日
EDU-Portシンポジウム

アブダビ首長国（UAE）における 学校導入事業 ～KUMON in School～



公文教育研究会
ライセンス事業推進部
須川

1. 事業の背景
2. 現地のニーズ
3. 具体的な活動内容と成果
4. 「新しい日常」における水平的で双方向の学びについて
 - 本事業を通じて得られた学び（持つべき視点や心構えを含む）
 - 日本の教育現場に還元したいこと
 - EDU-Portに期待すること



1. 事業の背景

【概要】

アブダビ国営石油会社（以下ADNOC）・ジャパン石油開発株式会社（以下JODCO）・公文教育研究会（以下KUMON）の3社パートナーシップの元、アブダビ首長国（以下アブダビ）の子どもたちの学力・非認知能力の向上に貢献する活動である。

【経緯】

- 1998年：事業開始
- 2017年：現在の推進体制に変更
- 2021年度：
小学校8校4,202名に、
学校の教員が指導するコンテンツ
として公文式学習法を提供中。



【KUMONの思い】

パートナー様と協働し、新しい国や形態（小学校導入）で、公文の経験・ノウハウを現地の事情に合わせてご提供することで、より多くの子供たちに質の高い教育の機会を届け、SDGs 4 実現に貢献したい。

2. 現地のニーズ



アブダビの学校教育の特徴

- 導入校において、教員が自国民（UAE人）ではなく、2～3年で入れ替わるケースが多い
- 生徒は家庭ではアラビア語を話しているが、公文が導入されている算数の授業は英語で行われている



クラスマネジメントの難度が非常に高い

ニーズ

- 学力・非認知能力の向上
- コロナ禍における教育機会の継続

3. 具体的な活動内容と成果（全体像）

	2018-19	2019-20 【タブレット実験導入】	2020-21 【全面オンライン学習の実現】
トピックス	導入校主催の統一テストで算数の平均点向上など、学校側から好感触。ただし、 教員の負担が大きい とのフィードバックあり	教員の負担軽減のため、 タブレット学習を実験導入 。紙学習と比較して、遜色ない学習結果（学習枚数、進度）を確認。 	【コロナ禍緊急対応】 全面オンライン化が必須となったが、ペン付きタブレット確保が難しく、緊急対応でデバイスに左右されない キーボード入力学習 をご提供し、 教育機会の確保に貢献
学校数	4	6	8
学習者数（学年）	614（小1）	1,892（小1、小2）	4,202（年長～小3）
研修受講教員数	52	150	303
対象学年	G1	G1-2	KG2-G3
形態	紙	紙 タブレット（3/67クラス）	デジタル公文 オンラインプレップ公文

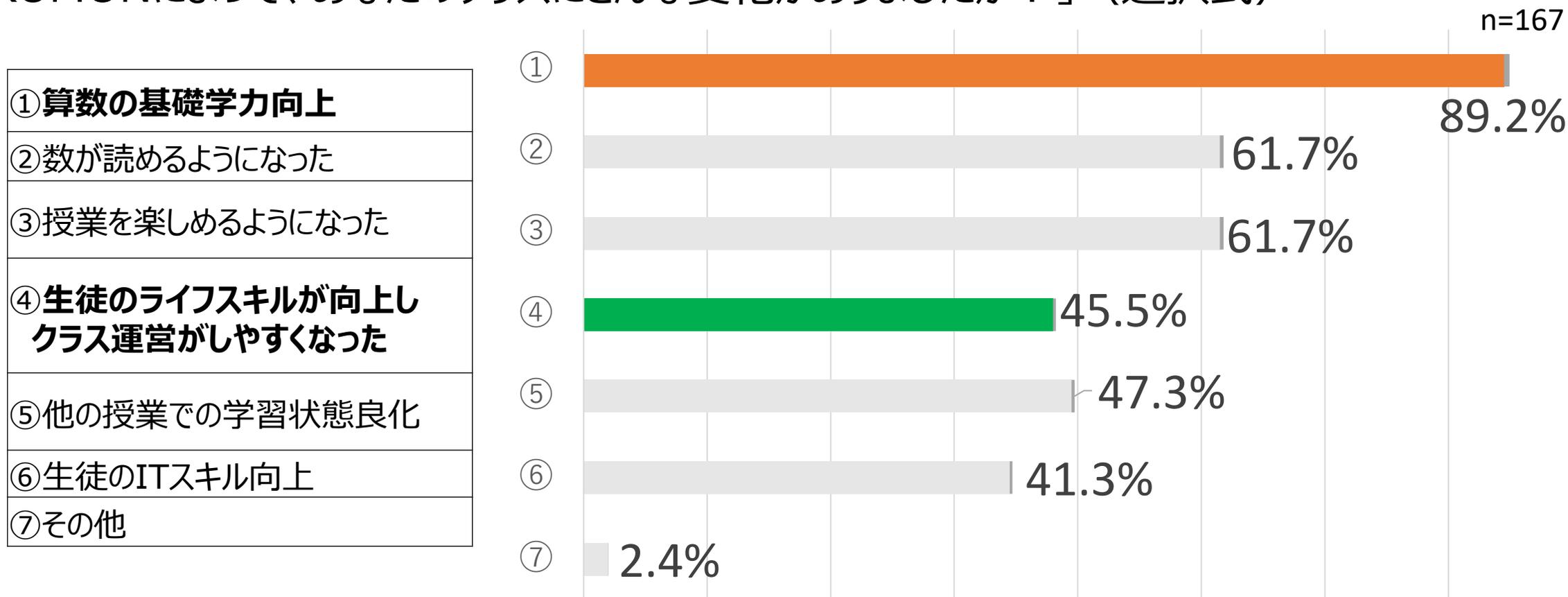


3. 具体的な活動内容と成果（2021年度学校サポート内容）

学校運営者との面談	<ul style="list-style-type: none">・平均月1回程度 オンライン面談にて現状の共有および今後の対策検討、改善要求
クラス担任・CA研修	<ul style="list-style-type: none">・年間のべ58時間 (オリエンワークショップ、 マンスリーワークショップ)
学校・先生サポート	<ul style="list-style-type: none">・デジタル化で採点・報告書業務を削減・メール・WhatsApp通じて随時サポート・毎週、先生方にNewsletterを発行 (情報や公文の考え方を共有)・毎週、HeadやLeadに各クラスの数字共有 (学校から先生への意欲喚起を促進) <p>[※コロナで学校訪問は年間通じて不可だった]</p>
生徒・保護者サポート	<ul style="list-style-type: none">・生徒保護者サポート電話を設置（英語・アラビア語で対応） (のべ822件、月平均で約120件の対応)(デジタル知識がほぼない生徒・保護者に、PCやiPadの基本的使用方法から懇切丁寧に説明・サポート)

3. 具体的な活動内容と成果（教員の声）

■「KUMONによって、あなたのクラスにどんな変化がありましたか？」（選択式）



「①算数の基礎学力向上」を選択した教員が9割近いのと同時に、半数近くが「④生徒のライフスキルが向上し、クラス運営がしやすくなった」を選択。学校の中だからこそそのKUMONの効果が確認できた。

3. 具体的な活動内容と成果（保護者の声）

■「公文式を通じてお子様にどのような成長があったと感じますか？」（選択式）

①日常生活で数をかぞえられるようになった（例：電話番号、商品の値札など）

②数を早く数えられるようになった

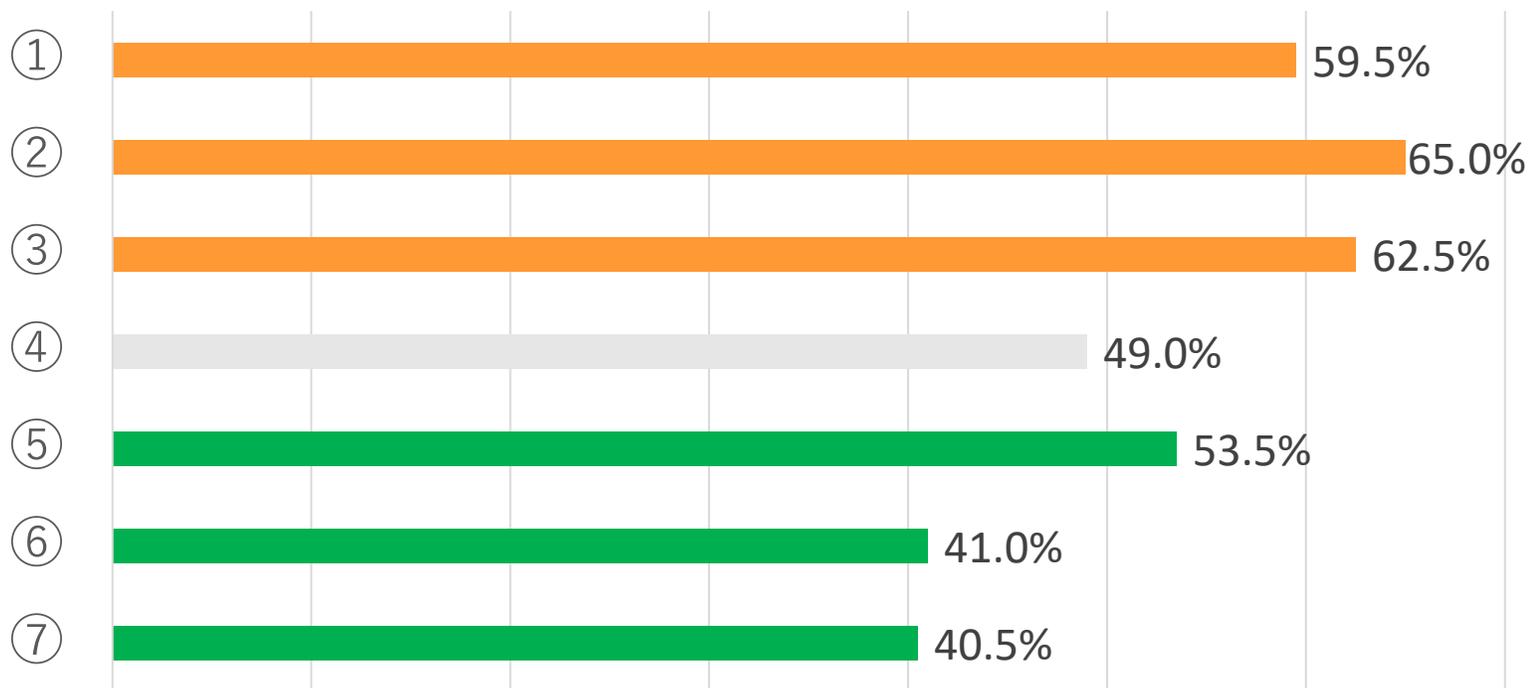
③計算能力が向上した

④以前よりも算数を楽しんでやるようになった

⑤集中力が向上した

⑥より自立して学習できるようになった

⑦勉強に対し自信を持てるようになった



トップ3は全て算数の能力向上（①②③）。一方で、非認知能力に整理される

「⑤集中力⑥自立⑦自信」も4～5割近くの保護者が選択。アブダビの保護者にとって、

学校での公文式学習を通して醸成される学力・非認知能力向上の実感があることが確認できた。

4. 「新しい日常」における水平的で双方向の学びについて

～本事業を通じて得られた学び（持つべき視点や心構えを含む）～

- 先入観なく、現地の事情やニーズをくみ取り、理解する大切さと難しさ
- 理解した事情と“KUMONだからこそできること”とのバランスの取り方

上記の学びを通じて、アブダビの学校に受け入れられ、事業が発展していくためのポイントを以下のように整理。

1. 教員のツールとしての公文式学習で子どもたちの能力向上へ貢献すること

特にレディネス不足により学力が低い生徒たちの底上げ（ボトムアップ）と、能力の高い生徒をさらに伸ばす（トッププル）の両立。

2. 学校経営・授業運営への貢献への意識

教員の入れ替わりが多いアブダビの学校において、学校経営・授業運営（クラスマネジメント）の一助となること。

3. 導入先が納得できる学習効果の指標の設定

公文式学習の導入の効果を、公文の論理ではなく学校の文脈でエビデンス化し、納得できるものにする

4. 「新しい日常」における水平的で双方向の学びについて

✧ EDU-Portに期待すること

ご清聴ありがとうございました